

助け合い・支え合いのある地域づくり

矢板市社会福祉協議会は、地域で暮らす様々な人たちが、世代や分野を超えて連携・協働し、高齢になっても安心して暮らし続けられるまちを目指して、地域の助け合い・支え合いを推進しています。

生活支援体制整備事業

高齢になっても、安心して暮らしていける地域づくりについて自分たちで考え、住民同士の支え合い(互助)の力を高める取り組みです。この取り組みの推進役として『協議体』と『生活支援コーディネーター(地域支えあい推進員)』が活動しています。

※矢板市社会福祉協議会では生活支援体制整備事業を矢板市から受託しています。

協議体ってなに？

地域に住む個人・団体などがメンバーとなり、地域の「ちょっといい話」「困ったこと」「地域で行われている活動」など、地域のことについて、自由に話し合い、情報共有をする場です。

生活支援コーディネーターってなに？

協議体と協力しながら、自分たちの地域をより良くしていくために、ニーズとサービスをマッチングする、調整役です。

話し合いの場(第2層協議体)が、中学校区単位の矢板・泉・片岡地区にあります。



矢板 助け合いの会「やさしい手」
第4金曜日 14:00～
会場：矢板公民館



泉 ぼっちの会
第3金曜日 14:00～
会場：泉さずな館



片岡 ささえあいの会
第4水曜日 14:00～
会場：片岡公民館



第2層協議体ではメンバーを募集しています！
興味・関心のある方、詳しく知りたい方はお気軽にご連絡ください。

なぜ必要なの？

◎団塊の世代が後期高齢者となる2025年から、少子高齢化はさらに進展

全国的に少子高齢化が急速に進んでおり、矢板市も例外ではありません。今後もますます進展することが見込まれています。

◎高齢者が増える一方で介護の支え手は減少

高齢者が増えると、介護を必要とする人も増えます。一方で、介護を担う若い世代は減少しています。これからの世代は、介護負担が増加し、高齢者を支えることが難しくなると考えられます。

⇒元気な高齢者が支え手側になることが期待されています！

～伸ばそう！健康寿命！～

健康でいきいきと生活するためには、『介護予防』が大切です。趣味、ボランティア活動、サロンに参加など、『社会参加』することも介護予防に効果的です。

～日常のちょっとした困りごとは、『互助』で支え合う～

年齢と共に日常生活上の困りごとは増えていきます。その中には、地域で互いに支え合うことで解決できることもあるはずです。これからは元気な高齢者は支え手として、『互助』で支え合う『生活支援』が必要になります。

～3つが大切～

- ① いつまでも元気でいきいきと暮らしていくために…『介護予防』
- ② 日常生活のちょっとした困りごとを互助で助け合う…『生活支援』
- ③ 参加と支援で人とつながる…『社会参加』

⇒この3つを推進するために『生活支援体制整備事業』をすすめています。

【連絡先】

矢板市社会福祉協議会
矢板市市民福祉部幸齢課

TEL 44-3000
TEL 43-3896

